

「関係性」あれば 出向く若者たち

一般社団法人 日本新聞協会
企画開発部長兼新聞教育文化部長

尾高 泉さん

Izumi Odaka



静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

好評な新聞出前授業

全国紙、地方紙をはじめ国内の主要な新聞社・通信社・放送局が加盟する日本新聞協会は国内メディアの「総本山」ともいべき存在だ。「私のいる事務局はある意味、新聞の応援団、広報の役割を担っています」と尾高さん。

新聞社とともに、NIE(エヌアイイー)として、学校など教育現場で新聞を教材として活用してもらおう活動に取り組む。19

85年に静岡市で開かれた新聞大会で提唱されたのが始まりだ。現在は対象を家庭にも広げている。「全国学力テストの正答率は新聞を読んでいる子供ほど高いというデータもあります」。

それでもスマートフォン普及などで新聞を読む若者は減りつつある。そうした若者の無購読対策の一つとして、新聞社とタッグを組んで始めたのが「新聞出前授業」。協会が作った「若者しごと応援ガイド」(冊子)には、各地の商工会議所や信用金庫か

地元の良さを「分解」

「静岡市って非常にゆっくり時間が流れていて、それが少し物足りなくて東京に出たんですね」。新聞協会に入り、多くの地方紙幹部らとの交流などを通じ静岡が恵まれた土地だということに気づかされたそう。ただ、「全国あちこちで感じる必死さというか、東京にいて刺さってくるものがないんですね」と率直な感想も。

ビジネスについては、「私は事業者でないのだから外れでしたら恐縮ですが」と断った上で、「マスやパッケージではなく、地元の良さを分解して、たとえ小さなコミュニティでも、消費者とのエンゲージメント(関係性)を構築することが必要ではないでしょうか。SNSなども活用し、それを県外や世界に向けて探してみたらどうでしょうか」と話す。

「今の特に若い人は自分とのエンゲージメントやこだわりを強く感じさせてくれるものがあればマイナーな所でも出向くし、ファンになるんですね」。北九州市生まれの静岡育ち。

(文：長田義明、写真提供：尾高氏)



経歴

北九州市生まれ。県立静岡高校卒業。慶應義塾大学法学部卒業。社団法人(現在は一般社団法人)日本新聞協会に入職。国際関係、出版広報、広告などの部門、編集制作部技術・通信担当、経営業務部経営企画担当、企画開発部企画開発担当各主管を経て、2012年、企画開発部長に就任、14年から新聞教育文化部長兼務。

慶應義塾機関誌「三田評論」の14年5月号特集「新聞の現在」座談会に出席。
<http://www.pressnet.or.jp/>